

問1 岩手県や福岡県において、1960年代後半には工業出荷額の約3割を占めていた鉄鋼業の割合が、2018年時点で1割前後にまで低下している主な要因として、日本の産業全体に見られるどのような背景が挙げられますか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 原料となる鉄鉱石の輸入価格が高騰し、日本国内のすべての製鉄所が閉鎖に追い込まれたため | 2. 工業地帯が沿岸部から内陸部へ移動したことで、鉄鋼製品の輸送コストが大幅に増大したため | 3. 産業構造の変化にともない、経済の重点が重厚長大産業から加工組立型やサービス産業へ移行したため | 4. 環境保護の観点から、金属資源を利用する工業製品の生産が法律によって厳しく制限されたため |
|---|---|---|--|

問2 日本が輸入している主な鉱産資源と、その主な輸入先相手国の組み合わせとして最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2026年

宮崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------|-------------------|-----------------|---------------|
| 1. 原油 — オーストラリア | 2. 鉄鉱石 — アラブ首長国連邦 | 3. 石炭 — サウジアラビア | 4. 鉄鉱石 — ブラジル |
|-----------------|-------------------|-----------------|---------------|

問3 国や地域の産業構造は、輸出される品目の構成に強く反映されます。一般的に、工業が発展している国と、天然資源が豊富な国における輸出の特徴について述べたものとして、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 高知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 工業が発展している国では機械類や自動車などの工業製品が輸出の中心となり、資源が豊富な国では石炭や天然ガスなどの鉱産資源が輸出の中心となる。 | 2. 工業が発展している国では石炭や銅鉱などの鉱産資源が輸出の中心となり、資源が豊富な国では農産物やサービス貿易が輸出の中心となる。 | 3. どの国においても産業構造に関わらず、食料品などの農産物とサービス貿易が輸出額の大部分を占めるのが一般的である。 | 4. 工業が発展している国では未加工の原料や燃料が輸出の中心となり、資源が豊富な国では高度に加工された機械類が輸出の中心となる。 |
|--|--|--|--|

問4 中国、ドイツ、インド、イギリスの4か国における2010年と2018年の発電エネルギー源別割合の変化を比較したとき、これらすべての国に共通して見られる傾向として正しいものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 水力発電が占める割合が、火力発電を上回るほど増加している。 | 2. 風力発電と太陽光発電が占める割合が、いずれも増加している。 | 3. 二酸化炭素を排出する火力発電の割合が、すべての国で5割以下に減少している。 | 4. バイオマス発電の割合が、太陽光発電の増加率を大きく上回っている。 |
|----------------------------------|----------------------------------|--|-------------------------------------|

問5 ある地域において、観光振興に向けた基礎資料を得るために、訪問者の居住地や交通手段、宿泊状況などを把握する実態調査を行うことになりました。この調査の対象として最も適切なものはどれですか。 (2017年 香川県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 1. 地域内の宿泊施設に滞在している宿泊客のみ | 2. その地域を訪れている観光施設の利用客 | 3. 観光地にある商店や施設で働く従業員 | 4. 駅の改札を利用している通勤者や通学者 |
|-------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|

問6 日本の産業構造が、第三次産業の割合が約7割に達する現在の形へと変化してきた背景や理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2015年

岐阜県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 技術革新による農業や製造業の機械化・自動化が進み、余剰となった労働力が多様化したサービス業へ移動したため。 | 2. 第二次産業の生産性が著しく低下したことで、国を挙げて工業を廃止し、すべての労働力を商業に集中させたため。 | 3. 食料自給率を低下させることを目的として、政府が第一次産業から第三次産業への強制的な職業転換を命じたため。 | 4. 発展途上国から多くの工業製品を輸入することが不可能になり、国内のすべての産業をサービス業に特化させたため。 |
|--|---|---|--|

問7 日本国内の都道府県別の住宅用太陽光発電機器の設置状況をまとめた資料から読み取れる、地理的な分布の傾向として正しいものはどれですか。 (2023年 秋田県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 設置割合が高い上位の県は本州の内陸部や九州に多く、設置割合が低い下位の県は日本海に面した地域に多い。 | 2. 設置割合が高い上位の県は年間降水量が最も多い紀伊半島周辺に集中し、設置割合が低い下位の県は瀬戸内海沿岸に多い。 | 3. 設置割合が高い上位の県は太平洋に面した沿岸部に多く、設置割合が低い下位の県は標高の高い本州の内陸部に多い。 | 4. 設置割合が高い上位の県は広大な平野を持つ北海道や関東地方に多く、設置割合が低い下位の県は四国地方に多い。 |
|---|--|--|---|

問8 近年、多くの自治体で「地産地消」の取り組みが推進されています。この取り組みがもたらす効果や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 農産物の生産を海外の適地に任せることで、より安価な食料を安定的に輸入できるようにする。 | 2. 特定の農産物のみを大規模に生産し、全国や海外の市場へ大量に供給することで生産効率を高める。 | 3. 生産地から消費地までの輸送距離を短くすることで、二酸化炭素の排出を抑えるなど環境への負荷を軽減する。 | 4. 地域の農産物をすべて加工品にすることで、保存性を高めて遠方の都市部へ販売することのみを目的とする。 |
|--|--|---|--|

問9 宮崎県や高知県などの温暖な地域において、ビニールハウスなどの施設を利用してピーマンやナスなどの収穫時期を通常よりも早めて出荷する「促成栽培」が行われています。このような工夫が行われる背景にある、農家の経済的なねらいとして最も適切なものはどれですか。 (2021年

和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 夏の強い日差しや台風による被害を避けるために、収穫を春までにすべて終わらせるため | 2. 大都市の近くで栽培を行うことで、輸送にかかる時間やコストを最小限に抑えるため | 3. 他の産地の出荷が少ない時期に市場へ出すことで、より高い価格での販売を目指すため | 4. 同じ土地で1年に2回異なる種類の作物を栽培することで、土地の利用効率を高めるため |
|---|---|--|---|

問10 日本国内における水産物の需要低下に対応するため、宮崎県などの自治体や水産事業者が行っている取り組みの説明として、最も適切なものを次のうちから1つ選んでください。 (2022年 宮崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 1. 海外市場に向けた水産物の輸出拡大を推進する取り組み | 2. 沿岸地域で行う遠洋漁業の規模を大幅に縮小する取り組み | 3. 水産物の国内における購入量を法的に制限する取り組み | 4. 国内で消費する全水産物を輸入に切り替える取り組み |
|------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|

問11 日本の諸地域の農業に関する説明として、北海道と三重県の統計的な共通点や特徴を正しく述べているものはどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 北海道では米の産出額が農業の柱となっており、畜産の産出額の約4倍に達している。 | 2. 三重県では果実の産出額が最も多く、農業産出額全体の約3割を占める畜産を上回っている。 | 3. 北海道と三重県はともに、稲作が農業産出額の5割以上を占める米どころとして知られている。 | 4. 北海道と三重県はともに、乳や肉を生産する畜産の割合が農業産出額全体の約30%を占めている。 |
|--|---|--|--|

問12 茶の栽培に適した自然条件について、土地の性質とその利点の組み合わせとして正しいものを次の中から選びなさい。 (2024年 富山県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---------------------------------------|
| 1. 低湿地：地下水が豊富であり、茶の栽培に必要な大量の水を常に根から吸収できる | 2. 急峻な山の北側：日光を遮ることで、光合成を抑制し葉を柔らかく保つことができる | 3. 緩やかな傾斜地：水はけが良く、根が腐るのを防ぐとともに霜の被害を抑えられる | 4. 盆地の中心部：湿気が溜まりやすく、乾燥を好まない茶の木の成長を助ける |
|--|---|--|---------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 産業構造の変化にともない、経済の重点が重厚長大産業から加工組立型やサービス産業へ移行したため	高度経済成長期、鉄鋼業は日本の経済成長を支える基幹産業でしたが、1970年代の石油危機などをきっかけに、日本は省エネルギー化や製品の付加価値を高める方向へと舵を切りました。これにより、自動車や電子機器などの加工組立型産業、さらには情報通信業などの第三次産業の比重が高まる「産業構造の変化」が起きました。その結果、製造業全体における鉄鋼業の出荷額の割合は相対的に減少することとなりました。
問2	答え 4 鉄鉱石 ― ブラジル	日本の鉱産資源の輸入先として、鉄鉱石はオーストラリアとブラジル、原油はサウジアラビアとアラブ首長国連邦、石炭はオーストラリアとインドネシアが上位を占めています。
問3	答え 1 工業が発展している国では機械類や自動車などの工業製品が輸出の中心となり、資源が豊富な国では石炭や天然ガスなどの鉱産資源が輸出の中心となる。	国の産業構造は貿易品目に現れます。日本のような工業国では、原材料を輸入して高度な技術で加工し、自動車や機械類といった付加価値の高い工業製品を輸出する傾向があります。これに対し、モンゴルやボリビアのように特定の天然資源に恵まれた国では、石炭、銅鉱、天然ガスなどの鉱産資源が輸出額の多くを占めるのが特徴です。
問4	答え 2 風力発電と太陽光発電が占める割合が、いずれも増加している。	地球温暖化対策として、世界的に再生可能エネルギーへの転換が進んでいます。特に中国、ドイツ、インド、イギリスといった主要国では、2010年から2018年にかけての統計において、風力発電と太陽光発電の割合が共通して上昇していることが特徴です。これは、持続可能な社会の実現に向けて、二酸化炭素を排出しない発電方法の導入が強力に推進されている背景を反映しています。
問5	答え 2 その地域を訪れている観光施設の利用者	地域の観光実態を正確に把握するためには、実際に観光を目的として訪れている「観光施設の利用者」を調査対象にするのが最も適切です。駅の乗降客には観光以外の目的を持つ人々が含まれ、宿泊客のみを対象とした場合は日帰り客の動向を把握できないため、観光振興のためのデータとしては不十分になります。施設利用者に直接アンケートを行うことで、訪問頻度や周遊場所といった具体的な動態を収集できます。
問6	答え 1 技術革新による農業や製造業の機械化・自動化が進み、余剰となった労働力が多様化したサービス業へ移動したため。	産業構造の変化は、技術の進歩と密接に関係しています。農業（第一次産業）や製造業（第二次産業）において機械化やIT化が進んだことで、少ない人数で多くの生産が可能になりました。その結果、労働力は医療、福祉、情報通信、娯楽といった、より多様で人的な対応が求められる第三次産業（サービス業）へと流動しました。これは経済が成熟した社会に見られる一般的な傾向です。
問7	答え 1 設置割合が高い上位の県は本州の内陸部や九州に多く、設置割合が低い下位の県は日本海に面した地域に多い。	住宅用太陽光発電の設置割合を都道府県ごとに確認すると、上位には長野県や山梨県といった本州の内陸部、および九州地方の各県が名を連ねています。これらの地域は、海からの湿った空気の影響を遮る地形条件や気候の影響で、晴天の日が多く日照時間が長いという特徴があります。反対に、日本海に面した地域は冬季の日照不足から設置が伸びにくい傾向が明確に現れています。
問8	答え 3 生産地から消費地までの輸送距離を短くすることで、二酸化炭素の排出を抑えるなど環境への負荷を軽減する。	地産地消には、輸送距離（フード・マイレージ）を短縮することで、運搬に関わる燃料消費や排出ガスを抑制する環境面でのメリットがあります。また、消費者が生産者の顔が見えることで安心感を得られたり、旬の食材を味わえるといった教育的・経済的な意義も含まれています。他の選択肢にあるような「海外への依存」や「大規模な遠隔地供給」とは対照的な概念です。
問9	答え 3 他の産地の出荷が少ない時期に市場へ出すことで、より高い価格での販売を目指すため	促成栽培は、温暖な気候やビニールハウスなどの施設を活用し、作物の成長を早めて出荷時期をずらす栽培方法です。野菜の供給が少なくなる冬から春にかけて出荷することで、市場価格が高い時期に有利に販売することを目的としています。これに対し、同じ土地で年に2回栽培するのは「二毛作」、都市近郊で行われるのは「近郊農業」と呼ばれます。
問10	答え 1 海外市場に向けた水産物の輸出拡大を推進する取り組み	人口推移や購入量の変化に伴い国内市場が縮小する中、宮崎県をはじめとする地域では、新たな需要を獲得するために海外への水産物の輸出拡大を目指した取り組みが進められています。
問11	答え 4 北海道と三重県はともに、乳や肉を生産する畜産の割合が農業産出額全体の約30%を占めている。	三重県と北海道は、地理的な位置は離れていますが、農業産出額に占める畜産の割合が約30%前後であるという共通点があります。特に北海道では、冷涼な気候や広大な土地を活かした大規模な畜産（酪農など）が行われており、その産出額は米の産出額の約4倍という大きな規模に成長しています。三重県も肉用牛などの畜産が農業の重要な位置を占めています。
問12	答え 3 緩やかな傾斜地：水はけが良く、根が腐るのを防ぐとともに霜の被害を抑えられる	茶の栽培には「水はけ（排水性）」が非常に重要です。緩やかな傾斜地や台地は、雨水が地表や地中をスムーズに流れるため、茶の栽培に適しています。一方で、盆地の底や低地は冷たい空気が溜まりやすく（冷気湖）、春先に新芽が霜に当たって枯れてしまうリスクがあるため、避けるのが一般的です。静岡県の牧之原台地などは、こうした水はけの良い地形を活かした代表的な茶産地です。